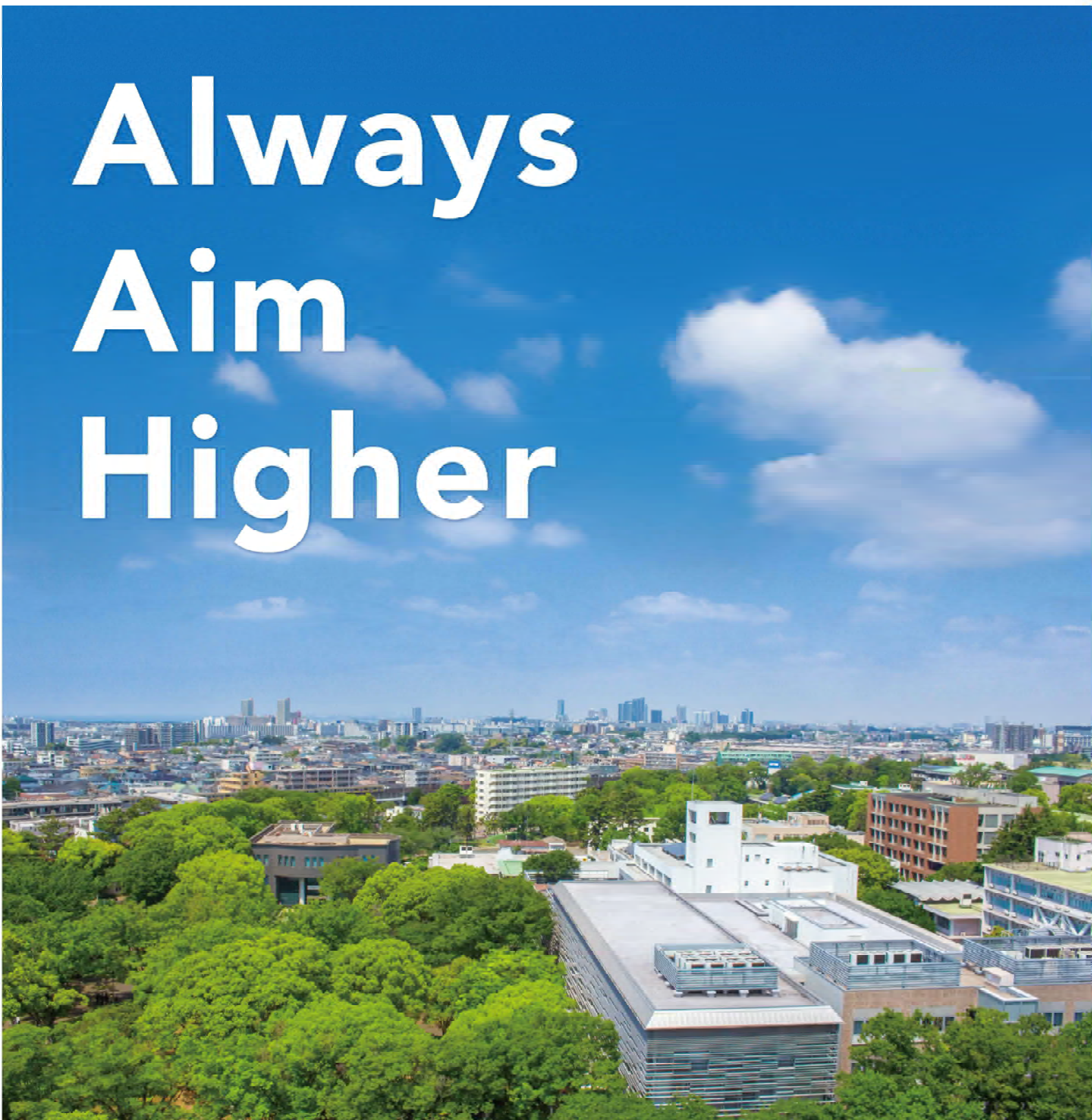




CHIBA UNIVERSITY

Always Aim Higher



千葉大学基金

ご寄付のお願いと2025年度活動報告

チャレンジを支え、人を育てる 千葉大学基金です。



ホームカミング&サンクスデー開催

2025年11月、卒業生にご寄付をしてくださった方々をお招きし、学生や教職員の活動成果報告や合唱、交流会などで本学の「今」と「みらい」を語り合う一日となりました。

看護学部創立50周年記念事業

2025年12月、愛子内親王殿下ご臨席のもと、式典を挙行了しました。殿下からは、看護師・保健師・助産師の養成や、学問としての看護学確立に貢献してきた本学の努力への敬意と、今後の発展を願う言葉を賜りました。



ENGINE
CHIBA UNIVERSITY
SINCE 2020

国内で唯一の「全員留学」

グローバル人材育成プラン「ENGINE」の一つ、全学生が在学中に留学を経験する国立大学で唯一の「全員留学」制度を通じて、高度な課題解決能力を養います。



千葉大学の教育研究活動に、温かいご支援をありがとうございます

千葉大学は1949年の発足から77年を迎え、現在は11学部9大学院からなる総合大学に発展し、学部入学志願者数は11年連続で国立大学1位を誇っています。2025年、本学は新たなビジョン「生命、環境、そして社会へ。知の共鳴で未来を拓く千葉大学」を掲げ、「研究」「教育」「社会貢献」「経営」「信頼」の5つを柱に、複雑化する社会課題に挑む研究と次代を担う学生の育成を目指しています。

しかし、国からの交付金が減額されるなか、学生や若手研究者が安心して学び・研究に挑める環境は年々厳しさを増しており、今日では、多様な教育研究を実現するため、才能と未来ある若者を応援していただく多くの皆様からのご支援が欠かせません。昨年度は「修学支援基金」「若手研究者支援基金」「千葉大みらい医療基金」などを通じて

およそ3億円のご寄付を頂戴し、経済的困難を抱える学生への奨学金給付や大学院生及び若手研究者への研究支援に活用させていただきました。皆様のご厚情が「未来への投資」として芽吹き、優れた人材を輩出すると同時に、多岐にわたる研究成果が社会に還元されていくことを真に実感しています。

法人の皆様からご支援いただける千葉大学基金へのご寄付は、全額損金算入が可能です。

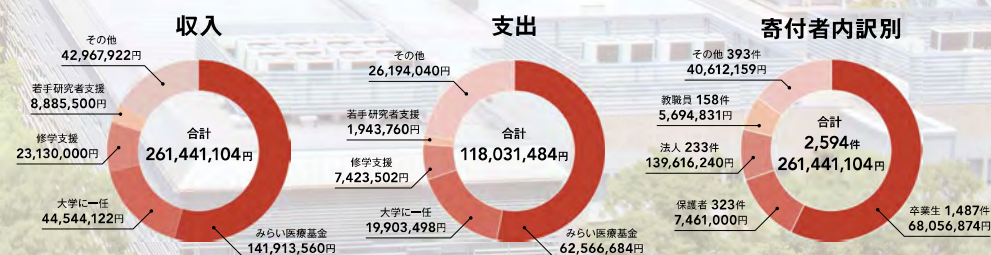
千葉大学は、皆様と共に、未来に向けた新たな価値を創造したいと考えていますので、なお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人 千葉大学長 **横手幸太郎**



2025年度ご報告

寄付総額 **2億 6,144万円** 寄付件数 **2,594件**



“たくさんのご支援をありがとうございました”

皆様のご支援により、学生たちの様々な挑戦が実現しています。学生たちから届いた感謝のメッセージをお届けします。

逆境を乗り越え、世界へ羽ばたく医師を目指して

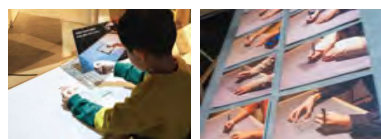
病院での実習直前に母を亡くし、生活や学びの継続に大きな不安を抱えていたとき、千葉大学基金からのご支援をいただき、生活上の不安なく教材の購入や病院実習に集中することができました。現在は、来年8月にブラジルで行われる留学実習プログラムに向けて英語学習に取り組んでいます。今後は、医療現場と医学研究の両面で研鑽を積み、国際社会で活躍できる医療人となることを目指して邁進していきます。ご支援いただいた皆様により感謝申し上げます。



白木さんが研究に励む「医学系総合研究棟」



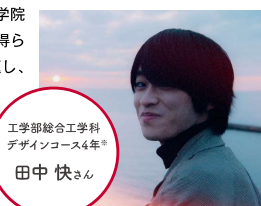
医学部 医学科4年
白木 七海さん



「意匠展2026(卒業研究・製作展)」での田中さんの展示

妥協のない集大成を一 デザインで社会の価値を可視化したい

デザインコース4年間の集大成の場である「意匠展」での展示に向けては、必要な機材や材料の購入が相応の負担となり、やりたいことを諦めかけていました。しかし、千葉大学基金からのご支援をいただいたおかげで、人生で一度きりの卒業研究・制作に自分のできる限りを尽くした展示とすることができました。今後は大学院にすすみますが今回のご支援で得られた経験をこの先何度も思い返し、研究をすすめていく中で、私の心の拠り所となることと思います。ご支援いただいたことに大変感謝しております。



工学部総合工学科
デザインコース4年
田中 快さん

ニュージーランドでの現地調査に挑む

ニュージーランドにおいて、住民が参画する河川整備事業についての調査を実施し、たくさんの新たな知見を得ることができました。今後も、海外での調査に挑戦していきます。



国文学研究科
博士前期課程2年
伊佐津 愛澄さん

がん患者さんに寄り添う 看護を目指して

がん患者の苦痛を和らげるケアを研究。ご支援のおかげで研究成果を国際学会や国際誌を通じて広く発信できました。今後は、質の高いケアが提供できるよう、がん看護学の発展に貢献していきます。

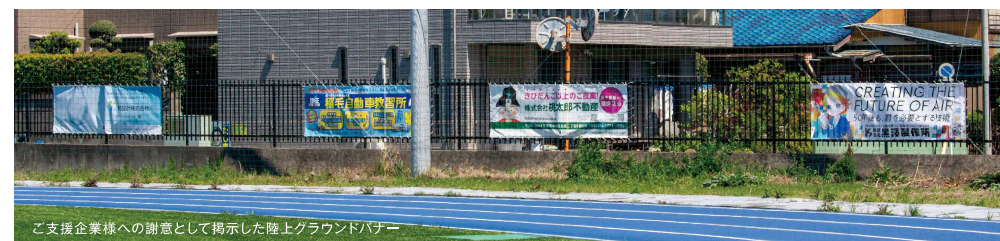


看護学研究科
博士後期課程2年
辻本あかねさん

みなさんのご支援で 陸上グラウンドが生まれ変わりました ありがとうございました



千葉大学 西千葉キャンパス 陸上グラウンド



ご支援企業様への謝意として掲示した陸上グラウンドバナー

千葉大学創立75周年記念事業として、陸上グラウンドの全面リニューアルが皆様のご支援により実現しました。これまでの温かいご厚意に、心より御礼申し上げます。(本事業は、令和7年度で終了いたしました。)

ご支援企業様

株式会社黒澤製作所 | 結設計株式会社 | 株式会社高品ハウジング
株式会社樹太郎不動産 | 株式会社稲毛自動車教習所

企業様からのMESSAGE

スポーツや課外活動を通じた 成長と活躍を期待しています



このたび千葉大学基金の趣旨に賛同し、微力ながら寄付をさせていただきました。千葉大学が創立75周年を迎え、その記念事業として新しい陸上グラウンドが完成されたことを、大変喜ばしく思っております。

学生の皆さんが恵まれた環境の中で学び、研究だけでなくスポーツや課外活動にも積極的に取り組むことは、人としての成長や将来の社会での活躍につながる大切な経験になるものと感じています。新しく整備されたグラウンドが、学生の皆さんの挑戦や交流を支える場となり、多くの思い出と成果を生み出していくことを期待しております。

今回の寄付が、学生の皆さんの学びや活動を支える一助となれば幸いです。千葉大学がこれからも自由で多様な学びの場として発展し、社会に貢献する人材を育み続けていくことを心より願っております。

株式会社黒澤製作所 代表取締役 黒澤達哉 氏

皆様の想いを胸に、これからも挑戦を続けます

大学に一任

際立った業績と学ぶ意欲を併せ持つ学生への奨学金給付や留学支援、学生への食の支援など、学生の学ぶ基盤を整えます。

優秀かつ意欲のある学生への支援

学長表彰を機にパプアニューギニアへ。
「動物と人の共生」で社会を救いたい。

憧れの作家と同じ文化人類学の道へ進み、修士課程では学長表彰をいただきました。皆様の支援により念願のパプアニューギニア調査が実現。現地で学んだ知見を、将来は国内外の獣害解決に役立てたいと考えています。温かいご支援、本当にありがとうございました。



大学院人文公共学府
博士後期課程1年※
笹本 美和さん

食への支援

食への支援は、日々勉学に励む
学生たちへの大きな支えです。



普段から自炊していますが、日々原材料の高騰を感じています。そんな中、食の支援をしていただける事に大変感謝致します。ありがとうございます。

寄付していただきありがとうございます。1人暮らしなので、朝食を自分で用意せざるを得ないのはすごくありがたいです。



都市の歴史を紐解き、
街の成り立ちを次世代へ。

多大なるご支援に心より感謝申し上げます。皆様のおかげで、香港での国際学会にて日本の公園緑地の歴史に関する成果を世界へ発信できました。この経験を糧に、将来は大学教員として自らの知見を次世代へ繋ぎ、後進の育成に貢献したいと考えています。



大学院園芸学研究所
博士後期課程3年※
村上 善明さん

修学支援

学びたい気持ちをまっすぐに。経済的な不安を安心に変え、
学生たちのひたむきな挑戦を支えています。

「数学で世界の人々と議論がしたい」
そんな私の背中を推した
恩師の言葉と基金の支援。

私は、数学を用いて情報を正確に伝達する「VT符号」の研究をしています。英語力への不安から留学を迷っていましたが、指導教員の「留学で得られるものは大きい」という助言と基金の存在が大きき後押しとなり、シンガポールへの渡航を決意できました。



大学院融合理工学府
博士前期課程1年※
米光 将大さん



現地では自ら滞在期間の延長を申し出て議論に没頭。皆様がくださった「一歩を踏み出す勇氣」と貴重な機会を糧に、現在は英語論文の執筆や、自主ゼミを通じた後輩への知見還元に励んでいます。

企業様からのMESSAGE



修学支援基金に込めた、私たちの想い



この度は、貴学の「修学支援基金」を通じて、未来を担う学生の皆様を支援できる機会を頂き、大変光栄に存じます。私自身、若い頃にバックパッカーとして世界120か国を巡った経験が、経営者としての視座を養う確固たる土台となりました。異国の地で得る驚きや葛藤こそが、人を成長させる最高の糧であると確信しております。

弊社は千葉市に根差し、資源の再生や環境適応型インフラを通じて循環型社会を支えています。資源を大切に守り、次へと繋ぐ私たちの仕事と同様に、学生という「次世代の宝」が経済的理由で挑戦を諦めることなく、広い世界へ羽ばたける環境を支えたい。そんな想いで寄付を決意いたしました。

どうか恐れずに外の世界へ飛び出してください。皆様の経験が将来の日本を豊かにする力になると信じ、心より応援しています。

株式会社キープエックス代表取締役 齊藤 進氏

若手研究者支援

大学院生を含む学生又は不安定な雇用状態にある研究者等の研究活動を支援します。



学生からのお礼
メッセージ動画はこちら



科学の楽しさを伝えたい。
基金の支援が結ぶ、
あくなき技術への挑戦

私は、電気化学で「光の色」を自在に制御する研究をしています。高価な試薬費が課題でしたが、基金の支援により納得いくまで試作を繰り返すことが可能となり、従来1時間を要した制御を約100秒にまで短縮できました。この成果により、学会で優秀ポスター発表賞をいただきました。支援のおかげで「実験を途切らせない環境」を守ることができ、心より感謝しています。春からは光学メーカーの研究職として、世界中の人々に科学の驚きと喜びを届けてまいります。



融合理工学府
博士後期課程3年※
藪田 龍人さん

個別プロジェクト

さまざまな学びの現場での挑戦を支え、学生・教育活動の可能性を広げています。

学部支援

11学部のいずれかを指定して支援することができます。

日本一の栄冠を経て中国へ。
ランドスケープデザインの可能性を追い求めたい。

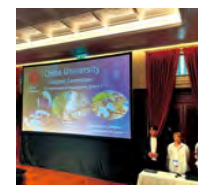
私は、汚染土壌を含む「ブラウンフィールド」のデザイン再生を研究しています。皆様の支援で参加した日本造園学会主催のコンペでは、日本一に輝くことができました。プロとの議論を通じ、提案を現実化するプロセスを学べたことは最大の収穫です。支援のおかげで将来の指針が定まり、充実した研究生活を送れています。この成果を糧に、将来はランドスケープの力で社会に恩返しをしたいです。



大学院園芸学研究所
博士前期課程2年※
山下 瑞貴さん

環境ISO 学生委員会

里山保全やSDGs連携など地域社会で活動しています。



アジアで開催する大会で「銀賞」を受賞。
世界で響いた学生主体の環境活動。

2026年2月、アジアの大学ネットワーク「ASCN」の第10回大会で1年生3名が20年にわたる活動成果を英語でプレゼンし、銀賞に輝きました。この挑戦は、京楽銀行からのご寄付により実現したものです。社会を変える力強いメッセージを届けることができ、「活動が世界で通用すると自信になった」と語る若きリーダーたちの躍進に今後もご注目ください。



環境ISO学生委員会
ホームページはこちら

環境への取り組み
に関する情報はこちら

企業様からのMESSAGE



株式会社フジクラ

フジクラは千葉県佐倉市に主要拠点を置き、「つなぐテクノロジー™」を通じて社会貢献を目指すメーカーです。多彩な研究分野と高い専門性を誇る千葉大学は、地域や産業界にとっても大切な「知の拠点」であり、私たちの事業や研究開発に多くの可能性を感じさせてくれる存在です。

今回の寄付が、学生・研究者の皆様がフジクラを知っていただくきっかけとなり、将来に向けて互いに刺激し合える関係へつながることを願っています。皆様の自由な発想や挑戦が新たな価値を生み出し、一人ひとりの未来を切り拓く力となることを心より応援しております。

附属 学校園

附属小学校統合60周年を迎えます。幼稚園、中学校も運営しています。

次代を担う子どもたちのために、そして
千葉県、千葉市の教育のさらなる発展のために。

附属小学校は令和8年度に統合60周年を迎えます。本校はこれまで「自主・協働・創造」の理念のもと、地域教育の課題に応える研究推進と、次代を担う児童の育成に努めてまいりました。この節目を機に、安全で充実した学びの環境整備(教室照明のLED化、防犯設備・プール設備の更新等)を進めてまいります。子どもたちの未来と地域教育のさらなる発展のため、温かいご支援を心よりお願い申し上げます。



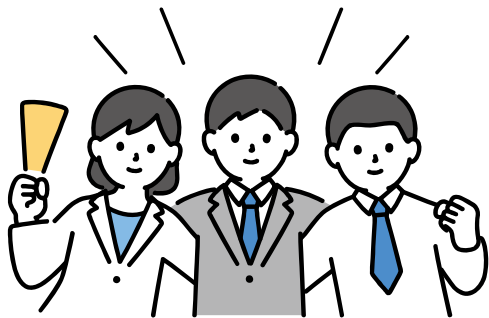
※掲載している学生の年次は2025年度時点のものです。

1

法人型冠奨学金制度

社名を冠した奨学金で、未来のリーダーを育てませんか

千葉大学基金へのご寄付を通じて学生を支援していただいた、企業をはじめとする法人の名称を冠する給付型の奨学金制度です。奨学金の名称や対象人数などを自由に設定いただけます。奨学生に期待する法人の意向を反映するとともに、学生に対する認知度の向上や、教育研究活動のさらなる充実を目指します。



奨学金の名称は、以下の形式となります。

千葉大学基金法人型奨学金 ○○○(法人名)奨学金

例えば、法人名が **チバダイコーポレーション** の場合、名称は以下の通りとなります。

千葉大学基金法人型奨学金 チバダイコーポレーション 奨学金

Point 01

**認知度向上
イメージアップ**

奨学金名に貴法人名を冠することで、意欲溢れる学生や学内へ広く法人名が浸透し、「若者を支える法人」としての信頼を築けます。

Point 02

**法人の意向を
柔軟に反映**

支援したい学部や研究分野、人数などを独自に設定可能です。貴法人のビジョンに合致した、将来有望な人材の育成に寄与できます。

Point 03

**優秀な学生との
関係構築**

貴法人が企画する報告会等に、奨学生が参加します。学生の成長を見守り、将来を担う若者との確かな繋がりを出します。

お申し込みの流れ

1

要件の検討

奨学金の名称、年度ごとの給付額や対象人数、対象とする学部・学科(大学院・専攻)や年次をご指定いただけます。

2

申込書の提出

3

奨学生の選考

成績による選考と法人による面談(必要に応じて)を行ったうえで奨学生を決定します。

4

基金に入金

1口60万円～
全学繰り入れ分の10%を差し引いた額が奨学金として学生へ支給されます。

5

報告会の開催

奨学生は、法人が成果報告会等を企画した場合は参加するものとします。

2

サンクスプレート制度

学生たちが過ごす空間で、貴社の情報発信ができます



個別プロジェクトの「学部への支援」へ一定額のご寄付をいただいた企業等の法人に対する謝意として、学部の教室などにその名称を3年間にわたり「別称」として掲示できる制度です。日常的に利用する講義室に掲示されることで、学生たちの身近な存在として企業名を定着させることが可能です。

サンクスプレート制度の概要 ※次ページにて、サンクスプレートの設置事例をご紹介します。

対象施設	原則として、教室(講義室)、廊下、ホール等建物の内部を対象
プレートの構成	① サンクスプレート 講義室等の別称、寄付者様の企業名、商標名及びロゴマーク等で構成されるプレート(大きさの目安 JIS-A5 148mm×210mm程度) ② サンクスインフォメーションボード 寄付者様の企業名、企業情報の紹介等で構成されるボード(大きさの目安 JIS-A1 594mm×841mm程度)
寄付目的	ご指定の学部の支援に限定(ご支援いただく学部をご指定いただきます)
寄付金額	原則下記のいずれかの場合に本学からの謝意として設置 ・1回300万円 ・100万円以上の寄付があり、以降3年以内に200万円以上の寄付を予定している場合
設置期間	原則3年間
設置費用	① サンクスプレートの製作や設置、期間終了に伴う原状復帰に係る費用は本学が負担 ② サンクスインフォメーションボードの製作や設置、期間終了に伴う原状復帰に係る費用は原則寄付者様のご負担 ※ただし、寄付者様が希望する場合は、①及び②いずれも寄付者様の負担、または寄付者様が指定する代理者の負担とすることが可能

Point 01

**ターゲットの
明確化**

特定の学部を指定した寄付により、貴社が求める分野の学生や研究者へダイレクトに認知を広げます。

Point 02

**契約不要の
独自システム**

一般的にネーミングライツと異なり公募や複雑な契約手続きを必要としません。学内の迅速な審査を経て、早期にプレート設置が可能です。

Point 03

**税制上の
優遇措置**

全額「損金算入」が可能です。

お申し込みの流れ

1

申込書の提出

支援する学部のご指定、寄付計画、ご希望の別称をお申込み。お申込みの段階では別称は仮称でも構いません。
※お申込み前に設置する学部の意向を確認させていただきます。

2

プレート設置の 検討

学部内で設置場所の可否等を検討します。教授会の審議が必要な場合、お時間をいただくこととなります。ご希望に合わせて、設置場所の見学も可能です。

3

検討結果の ご連絡

ご連絡と同時に払込取扱票を送送します。

4

寄付金のお振込み

お振込みから約1ヶ月後、お礼状と領収書を送付します。

5

デザインの 検討・製作

寄付者様と相談しながら、本学が設置業者とデザインやサイズ等を調整していきます。

5

プレートの 工事・設置

設置後に本学から設置報告明細書を送付します。
(デザインの校了～設置まで約1ヶ月)

サンクスプレート設置事例

これまでにご支援いただいた企業様の、プレートの設置例をご紹介します。



インフォメーションボード:幅1820×高さ1820mm



サンクスプレート:幅1260×高さ190mm

2025年度
設置事例

マブチモーター株式会社 様
工学部15号棟 110講義室

2022年度
設置事例

住友重機械工業株式会社 様
工学部15号棟 109講義室



サンクスプレート:幅300×高さ150mm



インフォメーションボード:幅1800×高さ1200mm

2022年度
設置事例

菊川工業株式会社 様
工学部10号棟 建築スタジオ1



インフォメーションボード:幅1200×高さ900mm



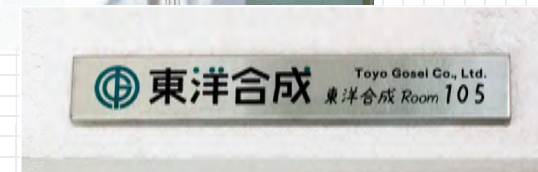
サンクスプレート:幅1800×高さ180mm



インフォメーションボード:幅1800×高さ1200mm

2025年度
設置事例

東洋合成工業株式会社 様
工学部5号棟 105講義室



サンクスプレート:幅420×高さ60mm

企業様からのMESSAGE



当社は、半導体材料・機能性化学品の開発・製造を通じて、情報通信や医療、モビリティなど幅広い分野の発展を支えています。技術革新の原動力は「人」であり、大学で培われる基礎力と探究心が次の産業を生み出すと考えています。

当社の感光材事業も、1970年代の研究開発開始以来、試作と評価を重ねながら基盤技術を磨き、1980年代には研究体制を強化して今日の事業につなげてきました。

さらに千葉大学とは、感光材黎明期からの学術連携を礎に、私が授業の一部を担当するほか、企業説明会、基金への寄付・奨学金や研究助成を通じて、学生の学びをささやながら応援してまいりました。今後も産学で学び合い、学修・研究環境の充実や社会課題に挑む皆さまの挑戦に、少しでもお役に立てれば幸いです。

千葉大学での学びが、皆さま一人ひとりの可能性を広げ、社会の未来を形づくる力となることを期待しています。千葉から世界へ羽ばたく皆さまのご活躍を心より応援しております。

東洋合成工業株式会社 代表取締役社長 **木村 有仁 氏**

サンクスプレート制度の留意点

1. 本制度のお申し込みの後に、プレートを掲示する施設の可否について、学部で検討を行います。検討の結果、ご希望に添えない場合がございます。
2. そのため、お振込みの時期は上記1の検討結果の後になります。本学から検討結果と併せてお振込みのご依頼のご連絡をいたします。
3. 名称については講義室番号を加えた形でご検討をお願いいたします。
4. 本制度によるご寄付は、各学部の使途特定事業として寄付額の9割を部局へ配分し、1割を使途を特定しない基金への繰入を行います。繰り入れた1割分は全学の学生支援のために活用させていただきます。
5. 分割でご寄付される場合、1年後毎に寄付計画、ご入金日の確認をさせていただきます。予定されている寄付計画に変更が生じた場合、本学に速やかにご連絡をお願い申し上げます。
6. 本学はプレートが安全かつ適正に設置されているか、その維持管理を行います。大学入学共通テストや個別入試の実施の際、プレート等を目隠しいたしますので、あらかじめご了承ください。
7. 設置後は本学HP・SNS、本資料において貴社プレートをご紹介させていただく場合がございます(寄付金額は掲載いたしません)。
8. 災害その他の事情により、プレート掲示の維持に困難が生じた場合には、双方協議の上、誠実に対応するものといたします。

ご寄付の特典（謝意）

特典内容	対象の寄付金額
感謝状の贈呈	500万円～
寄付者銘板(大)にお名前を掲示	
寄付者銘板(中)にお名前を掲示	200万円～
寄付者銘板(小)にお名前を掲示	50万円～
本学オリジナル生産品の贈呈	30万円～
ホームページにお名前を掲載	3万円～

ご寄付のお申し込みはこちらから→

<https://kikin.chiba-u.ac.jp/howto>



お名前が掲示される寄付者銘板(左)は、西千葉キャンパスのけやき会館(右)内に設置されています。



コーヒーなどの本学オリジナル生産品を贈呈いたします。
※写真は参考例です。種類は選択できません。

感謝状には千葉大学のシンボル
「やよいの鐘」がデザインされています。

ご寄付の目的とお支払方法

ご寄付の目的 以下のメニューからお選びいただけます。



大学に一任

幅広く教育研究活動事業に活用させていただきます



修学支援

経済的に不安を抱えている学生を支援します



若手研究者支援

不安定な雇用状態にある研究者等の研究活動を支援します



個別プロジェクト

学部もしくは特定の活動・プロジェクトから支援先をお選びいただけます

銀行、郵便局からのお振込み

お電話にてご連絡ください。(TEL:043-290-3005)
払込取扱票(振込用紙)を送付いたします。

クレジットカード、 インターネットバンキング、 PayPay、Amazon Pay

千葉大学基金のホームページをご確認ください。

法人からのご寄付の場合、 全額損金算入が可能です。

ふるさと納税、古本募金



ふるさと納税によるご寄付

千葉市へのふるさと納税で「千葉市大学支援寄付金」を
選択し、支援先として千葉大学をお選びください。



古本募金によるご寄付

千葉大学附属図書館1階総合カウンター横
「古本回収ポスト」、もしくは「チャリボン」より
支援先として千葉大学をお選びください。



↑チャリボンからのご寄付はこちら



千葉大学基金室

043-290-3005

syogai-fund@office.chiba-u.jp

ご寄付に関するご相談は、千葉大学基金室まで
お気軽にお問い合わせください。

基金の管理運営について

学内に設置した基金運営委員会において承認された活動計画により寄付募集活動を行い、事業実績・収支についてはホームページに掲載し、透明性を確保しております。また、監査は学長が指名した2名で行われております。寄付のお申し出が、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会勢力又は団体の影響を受けている場合には、寄付をお断りし、その者の費用で返金させていただきますので、あらかじめご了承ください。

個人情報の取り扱いについて

本学は、「国立大学法人千葉大学個人情報取扱基本指針」に基づき、提供された個人情報を利用目的の範囲内に限って取り扱い、その正確性を保持し、安全性を確保するなど、個人情報の収集・管理等に関する適正な取り扱いを確保するよう努力いたします。ご寄付により取得した個人情報につきましては、本学からの領収書とお礼状の送付、本学から寄付者様にご連絡する必要がある場合や寄付者様の顕彰に関する業務のほか、各学部同窓会での名簿管理に利用します。



千葉大学基金ホームページ
kikin.chiba-u.ac.jp



千葉大学交友会
facebook



千葉大学交友会
Instagram

